「南部バス」

再生から健全化、成長へのみちのり

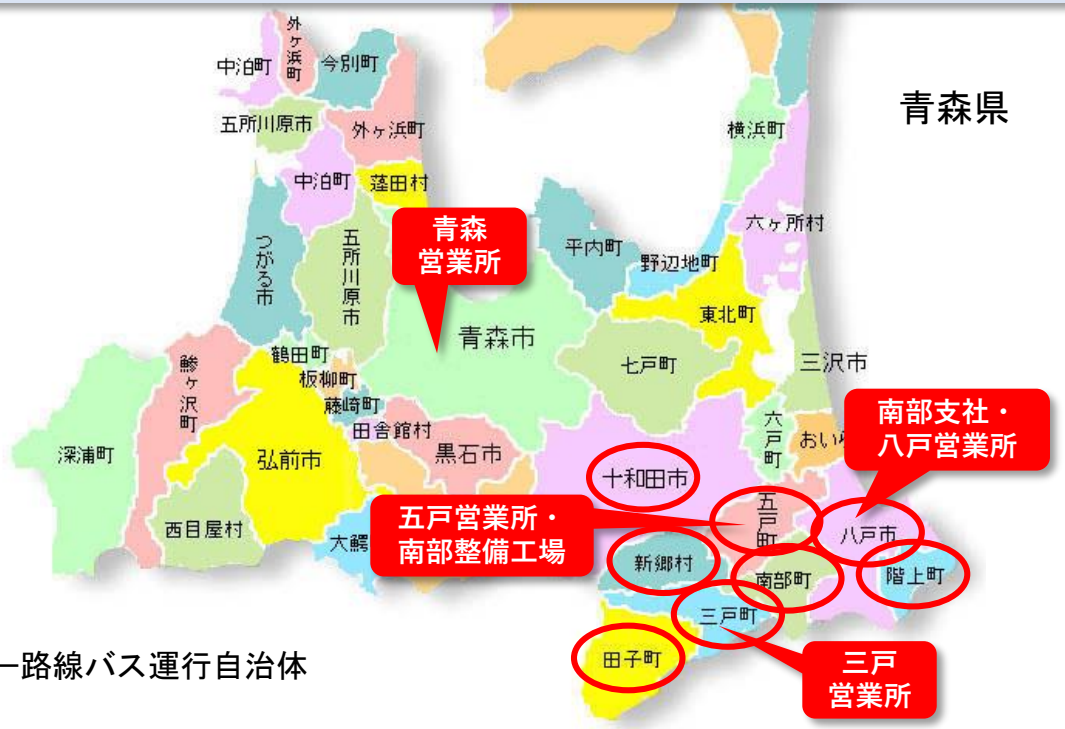
令和３年１１月１２日

岩手県北自動車株式会社南部支社（南部バス）

南部支社長　高橋　学

岩手県北自動車南部支社の概要

本　　社：岩手県盛岡市厨川１丁目１７－１８
南部支社：青森県八戸市大字是川字二ツ屋６－７９
事 業 所：八戸営業所（八戸市）、五戸営業所（五戸町）、三戸営業所（三戸町）
　　青森営業所（青森市）※令和元年10月新規開設、南部整備工場（五戸町）
社 員 数：２６２名（令和3年9月30日現在）
車 両 数：路線バス１２９両、貸切バス１３両（令和3年9月30日現在）



←路線バス運行自治体

【主な事業】

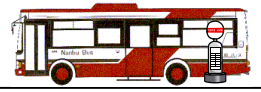
●八戸市を中心とした青森県南、岩手県北の２市、７町、１村にて路線バスを運行　●三戸郡内全町村で４条許可にてコミュニティバス、請負業務にて自治体所有バスを運行　●青森市営バス運行管理受託　●青森県・岩手県と首都圏、仙台、盛岡を結ぶ高速バスを運行
●一般・契約輸送貸切バス　●自動車整備業（指定工場）

旧南部バスの歴史　創業期から最盛期

- 現在の八戸駅（旧尻内駅）～五戸間12.3キロの地方鉄道業運営のため『五戸電気鉄道株式会社』の商号で大正15年2月21日設立、昭和6年から旅客自動車運送事業をも併せ運営、昭和18年に八戸市営、三戸町営等の旅客自動車運送事業を統合し、昭和20年『南部鉄道株式会社』に商号変更し青森県の県南、三八地区のバス事業を全面的に運営、昭和22年に八戸市内路線を八戸市に譲渡した。
- 昭和43年の十勝沖地震により壊滅的被害を受け地方鉄道事業を廃止、昭和45年に『南部バス株式会社』に商号変更し自動車旅客運送事業を主体として営業してきた。

“南部鉄道”から
“南部バス”
往時を偲ぶ写真を
少しだけ。

旧南部バスの歴史　経営悪化から民事再生適用申請へ



長期低迷から経営悪化へ

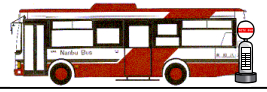
- 昭和45年には年間1,400万人を超える乗降客数があり、ピークとなる23億円を超える売り上げを計上していたが、それ以降は自家用車の普及や人口減少を背景に利用者が減少し、路線バス収入の長期低迷が続いた。
- 同時期に、鉄道廃線のよる社員のバス部門への配置転換、ワンマンバス化で車掌の事務・清掃員などへの配置転換などの組織構造改革を実施したが、路線バス収入の長期低迷が続く中で、次第に資金繰りが悪化していった。
- 厳しい経営環境から慢性的に資金繰りが悪化し、昭和60年頃からは退職金の支払いが厳しくなり、退職債務が累積していった。
- その後、賃金カット、賞与不支給、退職金減額など労働条件の引き下げを繰り返したが、その結果として、社員の士気が下がり、退職者の補充が進まず、慢性的な運転士不足となり、生活路線維持を優先する中で利益事業である貸切バス事業が縮小していった。
- また、資金難から必要な車両更新などの設備投資も出来ず、お客様へのサービス低下を招き、他社との競争力も低下していった。

みちのりホールディングスへの支援要請から民事再生適用申請へ

- 厳しい経営環境と慢性的な資金繰り悪化の中で、車齢25年を超えるバスが何十台も稼働しており、このまま事業を継続しても車両更新などの必要な設備投資は行えず、不測の事態等で資金ショートした場合には社員さらには地域社会に多大な影響を及ぼすことになるため、地域の足を維持して「ある朝バスが来ないという事態を絶対に避けなければならない」という強い思いから、バス会社の再生で実績がある「みちのりホールディングス」へ支援要請を行った。
- その後、みちのりグループで隣接地での事業を展開する「岩手県北自動車」への全事業を一体とした譲渡の方向で検討が進み、平成28年11月28日に民事再生法の適用を申請する運びとなった。

Everyday Everywhere いつもどこかで南部バス。

11月28日民事再生法適用申請



東北新聞社2016 （日刊）

デーリー東北 THE DAILY TOHOKU

2016年（平成28年）11月29日(火)
（旧暦 11月1日）大安

社 〒031-8601 八戸市城下1丁目3-12 ☎0178-44-5111 http://www.daily-tohoku.co.jp 購読お申し込み 0120-365-339

南部バス（八戸）再生法申請

負債26億円、運行継続

岩手県北自動車に事業譲渡へ

民事再生法の適用を申請した南部バスの本社屋
＝28日午後6時10分ごろ、八戸市是川二ツ家

青森県南、岩手県北地方を中心にバス事業を展開する南部バス（八戸市、佐藤力社長）が28日、東京地裁に民事再生法の適用を申請した。同日付で受理され、保全命令を受けた。負債額は26億8440万円。再建に向け、地方の公共交通事業で再生実績がある「みちのりグループ」（東京）の岩手県北自動車（盛岡市、松本順社長）に全事業を譲渡する方向。従業員249人の雇用を継続し、路線や便数も削減せずに"地域の足"を維持することを目指して協議を進めており、年内に合意したい考えだ。【2、29に関連記事】

南部バスなどによると、民間で債権者説明会を予定している。

南部バスは1926年2月に「五戸電気鉄道」として設立。70年5月に現社名に変更した。後、乗り合い路線バス、高速バス、コミュニティーバスを手掛けてきた。計130台のバスを所有する。

年間乗降客数はピーク時の72年度に1417万8千人だったが、自家用車での移動が定着したことや人口減少を背景に、2015年度は約4分の1の373万7千人に低落。売上高も82年度の23億3300万円がピークだったが、15年度は6億円程度の14億800万円まで落ち込むなど、厳しい経営環境から慢性的に資金繰りが悪化していた。約280人分の退職金計12億円以上が未払い状態という。

民事再生手続きによる会社再建について、八戸市内で会見した高橋弁護士は「地域の足を一日も欠かすことなく継続し、農産物や従業員の雇用、地域経済への影響などを最小限にするために採用した」と強調した。

佐藤社長は「多大な心配と迷惑をお掛けし、深くおわび申し上げる。民事再生手続きの中で、事業再生を図っていきたい」とのコメントを出した。

事業譲渡に当たっては、「南部バス」の社名を残す方向で調整中。岩手県北自動車の広報担当者は「両社とも旧南部藩で、高速バス（八戸―盛岡間）を共同運行するなどの付き合いもあり、事業譲渡に違和感はないだろう。協議中だが、前向きに検討している状況だ」としている。

南部バスは地元に90年にわたって根付き、公共交通機関の一翼を担ってきた。青森県南の自治体も今後の動きを注視しており、八戸市の小林眞市長は「事業再生がスムーズに進み、現在のバス路線が維持されることを強く願っている」とした。（大野大輔）

南部バス再生法申請

地方公共交通 存続の危機

南部バス（八戸市）が民事再生手続きの開始を申請し、事業譲渡する方向で協議を進めていることが、28日に明らかになった。同社に限らず、地方の公共交通機関は赤字体質が慢性化、不採算路線の維持が経営に重くのし掛かり、存続の危機に直面している。一方、自家用車を持たない高齢者や小中高生にとっては、日常生活に欠かせない移動手段となっており、税金を投入してバス事業を継続させているのが現状だ。【1、7に本紙】

南部バスの民事再生法の適用申請に関し概要を説明する高橋修平弁護士
＝28日午後4時すぎ、八戸市内

郡部 不採算路線増え

民間信用調査会社の帝国データバンク八戸支店によると、ピーク時には年商20億円以上を確保していたが、路線バス収入の長期低迷が続き、次第に資金繰りが悪化。赤字経営を強いられ、自力での再建を断念した。

「不振に陥った背景には、『車がないと生活できない』といわれるように、複数の自家用車を所有する世帯が多い地方特有の車社会が挙げられる。さらに人口減が拍車を掛けた。ただ、車を持たない高齢者らは、買い物や通院でバスを利用」。特に高齢化や過疎化が進む二戸郡で、その傾向が顕著だ。

住民の移動手段を守るため、乗客が少ない、2人しかいなくてもバスを運行しており、郡部を中心に不採算路線が増えた。稼働率の高い八戸市内では、中心街で市営バスと共同運行するなど、連携を進めたが、競合するケースも少なくない。

同市など八戸圏域定住自立圏の8市町村では、2011年に路線バスの上限運賃化の実証実験を開始し、12年から本格移行。南部バスも制度を導入し、運賃改定の下げ止まりに、定の効果があったものの、抜本的な経営改善には至らなかったという。

赤字を補填してきたのは、国や県、関係自治体からの運行補助金だ。年間平均で約1億9千万円が投入されている。

地方の公共交通に詳しい関係者は「路線バスは高齢者や学生などの『交通弱者』にとって欠かせない交通インフラだ」と強調。「バスが廃止されると、人口減少が進行し、公共交通機関を取り巻く環境はさらに厳しくなるだろう」と指摘する。

県南の公共交通を支えてきた企業グループに、再建に向けた動向について、地元経済界の関心は高い。八戸商工会議所の山崎憲専務理事は「南部バスは市民の足となっている。再生を果たせるように推移を見守りたい」とした。（松原一茂）

コミュニティーバス委託自治体

「寝耳に水」「路線維持を」

南部バスは三戸郡内6町村から委託を受け、生活路線バス、スクールバス、患者送迎バスなどを兼ねたコミュニティーバスを運行している。28日の民事再生手続き開始の一報に、自治体関係者は「寝耳に水」と驚きの声を上げる一方、「住民にとって貴重な足。現状の路線を維持してほしい」と要望した。

「通学に使う子どものために、一日でも止めることはできない。南部町企画財政課の西部勝彦課長はバスの必要性を強調し、同社に早期の説明を求めた。

階上町の担当者は「詳細は聞いていない。今後の状況を注視する」とし、田子町の山崎誠の沼澤修一課長補佐は、「これまで通り対応してくれるよう、しっかりと移管を進めてほしい」と注文を付けた。（取材班）

創業者一族「寂しい」

三浦五戸町長

南部バスが28日、民事再生手続きの開始を申請したことを受け、創業者一族の三浦正名五戸町長は取材に対し、「こういう事態になって寂しいの一言」と肩を落とした。

同社は1926年、三浦町長の曾祖父・三浦善蔵氏が同町で設立した五戸電気鉄道が前身。三浦町長も93～99年に社長を務め、現在は非常勤取締役に就いている。「今年は創業90年の節目の年だった。創業者の一族として残念だ」と語った。

平成28年11月29日付デーリー東北

南部バス再生法申請 利用者反応

運行継続に安堵 再建を願う声も

東北 2016年（平成28年）11月29日(火曜日)

90年にわたって地域の足を支えてきた老舗の南部バス（八戸市）が28日、民事再生手続きの開始を申請した。多くの利用者は突然の事態に驚きつつも、当面今まで通りの運行が続くことに安堵（あんど）し、「頑張って再建してほしい」と一日も早い経営の立て直しを願った。一方、同社のバスが日常生活に欠かせない公共交通機関となっている郡部では、将来的な利便性低下への不安から「路線を維持して」という切実な声も漏れた。【1、9に本記】

「確かにバスに乗る人は減ったが、昔から地元にある会社だし、そこまで厳しいとは知らなかった。八戸中心街でバスを待っていた同市の男性（78）は驚きを隠さない。

通院の際に利用するという新郷村の女性（77）は「前から経営が思わしくないとは聞いていたし、乗客も少なかったので仕方ない」と冷静に受け止めつつも、「何十年もお世話になってきた。さみしい思いもある」と残念がった。

民事再生手続きの開始を申し立てた南部バス。これまで通り路線や便数を維持しながら事業再生を目指す＝28日午後3時5分ごろ、八戸市の本八戸駅北口

同社のバスは三戸郡内と八戸市をつなぐ貴重な交通手段であり、通学や通勤で利用する人も多い。将来的な減便や路線廃止への危機感は強く、通勤で毎日利用している五戸町の40代男性は「現行のダイヤ、本数のままで継続してもらいたい」と要望。階上町の主婦（64）は「八戸市内に行くときはバスを利用している。生活に欠かせない交通手段なので何とか頑張ってほしい」と再建に望みを託した。

階上町に住む親戚の家に行くために利用することがあるという八戸市のパート高野優子さん（33）は「市営バスでは行けない地域もある。厳しい状況だろうが、今まで通りの運行を続けてほしい」と訴えた。

バスは高校生にとっても通学に欠かせない交通手段だ。南部町から市内に通う女子高校生（17）は「現時点で利用者には影響がないと聞いて、ひとまずほっとした」とする一方、「路線が無くなったり、本数が減ったりすると困る」と率直な思いを口にした。（取材班）

ASK

警視庁組織犯罪対策5課は28日、覚せい剤取締法違反（使用）の疑いで、歌手のASKA（本名宮崎重明）容疑者（58）＝東京都目黒区東が丘＝を逮捕した。関係者によると、「ひ

地元紙デーリー東北では3面を割いての記事を掲載。東奥日報などの新聞各紙、テレビでも同様に大きくニュースとして取り上げられた。その後も動向と関係者へのインタビュー、そしてこれまでの経緯とバス事業の現状を取り上げた連載記事が掲載されるなど、あらためて地域社会への影響の大きさを思い知らされた。

民事再生法適用申請から事業譲渡へ

- 28日は朝から弁護士など約10数名が会社の一室に陣取り、何も知らない社員は物々しい雰囲気に何事が起きたのかという感じであった。
- 当日午前中に取締役会を開催し、民事再生法適用申請することを決議した。
- 社長ならびに取締役が分担し、青森県、沿線市町村、取引業者、各関係先、労働組合などへの連絡を行った。大口取引先には直接出向き、お詫びと取引継続を依頼。取引先からは今後の事業への影響について切実な訴えを聞かされ、あらためてこのような事態を招いたことの重大さを痛感した。
- その後も、社員、債権者説明会、市町村との協議、取引先との交渉など多忙で長い一日の日々が続いて、これまでの人生の中で一番濃密な期間で、精神的にも大きな負荷が圧し掛かった記憶が残っている。
- 平成28年12月に岩手県北自動車との事業譲渡契約を締結し、その後の国交省の認可取得などを経て、翌年3月1日に事業譲渡実行となった。

平成28年11月30日付デーリー東北

デーリー東北

南部バス（八戸）民事再生法申請

「驚いた」「今後どうなる」

取引業者や債権者 再生望む

東京地裁に民事再生法の適用を申請し、事業譲渡に向けた協議を進めている南部バス（八戸市、佐藤力社長）は28日、三八地域を中心とした取引先に経緯を説明し、今後も取引を継続してもらえるよう理解を求めた。取引業者や債権者らは再生を望みつつ、「驚いた」「今後の経営が心配」などと、さまざまな反応を示した。

この日も路線バスは通常通り運行されたが、弁護士らが多数の取引に関する説明に追われた。

関係者によると、午前中から取引業者が次々と訪れ、佐藤氏の主要取引先には、午前10時から佐藤社長や役員らが説明に回った。

南部バスの取引先は約1000社。長い付き合いだが、今後の経営がどうなるのかがわからない。取引の条件などについては、よく相談したい」とする。

取引の継続を要望された取引業者は「民事再生法の適用は知っていたが、と驚く。民事再生法は、会社が再生するための法律だ。会社が再生すれば、今後の取引はどうなるのか、とても気になる。資金繰りが厳しいと聞いていたが、まさか、という思い。これまで通りの取引をするのだが、頼みの綱はこれが最後だ」と話した。

南部バスの債権者説明会で、弁済が困難との見通しが示されたことに、取引業者や債権者らは再生を望みつつ、「利用者の支援を」と、さまざまな反応を示した。

この日も路線バスは通常通り運行されたが、弁護士らが多数の取引に関する説明に追われた。

関係者によると、午前中から取引業者が次々と訪れ、佐藤氏の主要取引先には、午前10時から佐藤社長や役員らが説明に回った。

南部バスの取引先は約1000社。長い付き合いだが、今後の経営がどうなるのかがわからない。取引の条件などについては、よく相談したい」とする。

取引の継続を要望された取引業者は「民事再生法の適用は知っていたが、と驚く。民事再生法は、会社が再生するための法律だ。会社が再生すれば、今後の取引はどうなるのか、とても気になる。資金繰りが厳しいと聞いていたが、まさか、という思い。これまで通りの取引をするのだが、頼みの綱はこれが最後だ」と話した。

「公共交通守る」意識重要

路線見直し 可能性指摘

八戸市地域公共交通会議 武山 泰会長

南部バス（八戸市）を武山泰八戸工業大教授が民事再生手続きの開始を申請したことについて、八戸市地域公共交通会議の会長を務めるけて手続き継続を見通しの支援を受て利用することを含め、地域全体で公共交通を守ろう」という意識が重要」と強調した。

武山会長は南部バスについて「営業努力をしてきた。厳しい環境の足を守ってきた」と評価した上で、「全国的に消費した公共交通は、これまで何度も議論がなされた。民間社会当面の過程を慎重に」と指摘した。

「地域全体で『公共交通を守る』という意識が重要」と語る武山泰会長＝当日、八戸工業大

路線バスは通常通り運行されたが、弁護士らが多数の取引に関する説明に追われた。

関係者によると、午前中から取引業者が次々と訪れ、佐藤氏の主要取引先には、午前10時から佐藤社長や役員らが説明に回った。

南部バスの取引先は約1000社。長い付き合いだが、今後の経営がどうなるのかがわからない。取引の条件などについては、よく相談したい」とする。

取引の継続を要望された取引業者は「民事再生法の適用は知っていたが、と驚く。民事再生法は、会社が再生するための法律だ。会社が再生すれば、今後の取引はどうなるのか、とても気になる。資金繰りが厳しいと聞いていたが、まさか、という思い。これまで通りの取引をするのだが、頼みの綱はこれが最後だ」と話した。

国産リンゴ

平成28年12月2日付デーリー東北

南部バス 債権者説明会

事業譲渡 来年2～3月にも

再生法申請 経緯など報告

東京地裁に民事再生法の適用を申請し、事業譲渡に向けた協議を進めている南部バス（八戸市、佐藤力社長）は1日、市公民館で債権者説明会を開き、業績悪化で申請に至った経緯や今後の方針などを報告した。一方、申請代理人の高橋修平弁護士（東京）は、事業を譲渡する岩手県北自動車（盛岡市）との今月中の合意を目指し、必要な許認可を得られ次第、来年2～3月にも事業譲渡が実行される見通しを示唆した。（松原一茂）

南部バスの債権者説明会で、弁済が困難との見通しが示されたことに、取引業者や債権者らは再生を望みつつ、「利用者の支援を」と、さまざまな反応を示した。

この日も路線バスは通常通り運行されたが、弁護士らが多数の取引に関する説明に追われた。

関係者によると、午前中から取引業者が次々と訪れ、佐藤氏の主要取引先には、午前10時から佐藤社長や役員らが説明に回った。

南部バスの取引先は約1000社。長い付き合いだが、今後の経営がどうなるのかがわからない。取引の条件などについては、よく相談したい」とする。

取引の継続を要望された取引業者は「民事再生法の適用は知っていたが、と驚く。民事再生法は、会社が再生するための法律だ。会社が再生すれば、今後の取引はどうなるのか、とても気になる。資金繰りが厳しいと聞いていたが、まさか、という思い。これまで通りの取引をするのだが、頼みの綱はこれが最後だ」と話した。

弁済困難「仕方がない」

債権者 不満と諦め

南部バスの債権者説明会で、弁済が困難との見通しが示されたことに、取引業者や債権者らは再生を望みつつ、「利用者の支援を」と、さまざまな反応を示した。

この日も路線バスは通常通り運行されたが、弁護士らが多数の取引に関する説明に追われた。

関係者によると、午前中から取引業者が次々と訪れ、佐藤氏の主要取引先には、午前10時から佐藤社長や役員らが説明に回った。

南部バスの取引先は約1000社。長い付き合いだが、今後の経営がどうなるのかがわからない。取引の条件などについては、よく相談したい」とする。

取引の継続を要望された取引業者は「民事再生法の適用は知っていたが、と驚く。民事再生法は、会社が再生するための法律だ。会社が再生すれば、今後の取引はどうなるのか、とても気になる。資金繰りが厳しいと聞いていたが、まさか、という思い。これまで通りの取引をするのだが、頼みの綱はこれが最後だ」と話した。

債権者説明会の会場に入る取引業者ら＝1日、八戸市公民館

平成28年12月29日付デーリー東北

南部バス 事業譲渡

岩手県北自動車に 来年2月引き継ぎ

民事再生手続き中の南部バス（八戸市、佐藤力社長）は28日、岩手県北自動車（盛岡市、松本順社長）との間で事業譲渡契約を締結した。国の許認可手続きや従業員の雇用に関する合意を前提条件として、来年2月15日をめどに、路線バスやコミュニティーバス、高速バスの各事業に加え、子会社・南部バス観光の旅行部門を含めた全ての事業を引き継ぐ。経営主体はわるが、「南部バス」の名称でバス運行を継続する。

同日、申請代理人の高橋修平弁護士（東京）が八戸市庁で記者会見した。

民事再生は通常、再生計画の策定過程で再建方法を検討するが、今回はバス路線の維持や雇用確保の観点で、事業譲渡の準備を別に進めてきた。

高橋弁護士は「スポンサーの協力でここまで来られたのは喜ばしい。従業員や地域の皆さんに安心して正月を過ごしてもらいたいとの思いもあり、安堵した」と語った。

来年2月の事業譲渡に向け、国土交通省への手続きや従業員の引き継ぎのほか、高齢者などを対象とした特別乗車証の負担金の引き上げで八戸市と合意することなどが条件に入っており、今後関係者間で協議を進める。従業員はいったん解雇された後、新規雇用される方。

一方、債権者への弁済計画を盛り込む再建計画は、来年2月27日が東京地裁への提出期限。清算会社となる南部バスには、県北自動車から譲渡金3億円弱が支払われる見込みという。

同月10日午後1時半から、八戸市のユートリーで債権者説明会が開かれるほか、翌11日に同地裁で債権者の意見聴取が行われる。

県北自動車の広報担当者は取材に「現在、事業譲渡契約の実行に向けた協議を進めている。具体的な部分は決まり次第、説明したいと考えている」と述べた。（水野大輔）

事業譲渡の契約締結について記者会見する高橋修平弁護士＝28日、八戸市庁

Everyday Everywhere いつもどこかで南部バス。

3月1日事業譲渡決定

平成29年2月22日付デーリー東北

1日、県北バスに事業譲渡

3月1日からの事業引き継ぎについて記者会見する（左から）鈴木拓副社長、松本順社長、佐藤力社長、高橋修平弁護士＝21日、八戸市内

南部バス来月新体制

路線は維持、雇用継続

民事再生手続き中の南部バス＝八戸市、佐藤力社長＝と、事業譲渡の協議を進めていた岩手県北自動車（県北バス）＝盛岡市、松本順社長＝の両社は21日、八戸市庁で会見を開き、全事業の引き継ぎを3月1日に実行し、新体制をスタートさせると明らかにした。バス運行は「岩手県北自動車南部支社」が引き継ぐ形となり、南部バスの高橋学常務が支社長に就任。新体制で路線は現状のままで、ダイヤや運賃に変更はない。車両デザインは従来と変わらず、「南部バス」の名前は愛称として残る見通しだ。

【2、19ページに関連記事】

？ 岩手県北自動車　本社盛岡市、松本順社長。1943年10月創立。2009年5月の民事再生手続きの開始決定に乗り出したみちのりグループによる現体制に移行。「県北バス」の愛称で、盛岡市内や岩手県北、沿岸北部をエリアに、一般乗り合いバス、高速バス、貸し切りバス、遊覧船の運航などを手掛ける。16年12月現在、資本金1億626万5万円、バス234台、従業員435人。

県北バスは、東日本各地でバス事業の再生を手掛けるみちのりホールディングス（HD、東京）の傘下にあり、南部支社もグループの一員となる。みちのりHDの社長でもある松本社長は、会見で「グループ全体の人材やノウハウを生かし、利便性強化に取り組む」と意欲を述べた。

会見には、県北バスの松本社長と鈴木拓副社長、南部バスの佐藤社長と申請代理人の高橋修平弁護士（東京）がそろって出席した。

南部バスの従業員約250人はいったん解雇され、希望者は全員、県北バスが新規雇用する。現在、雇用条件を説明中で、大半の従業員が雇用継続を希望するとみられる。

事業引き継ぎの焦点となっていた、八戸市の「高齢」両社は会見で、最終的な譲渡代金を明らかにしなかった。実質1千万円引き上げ、年間1億円とする方針を掲げており、松本社長は「一定の配慮に感謝している。新しい体制でも乗車を活用し、多くの高齢者に乗車してもらえれば」と述べた。

また、老朽化した車両の更新を進めるため、南部支社に約2億円の設備投資を行うことも明らかにした。

一方、事業譲渡が決まったことで、南部バスの佐藤社長は「ほっとしている。救っていただくみちのりグループに感謝したい」と安堵の表情を浮かべた。

新体制への移行後、南部バスは清算手続きに入る。

譲渡は3月1日に実行し、県北バスによる新体制に移行する。当面は路線やダイヤを維持し、運賃の変更もない。南部バスは清算手続きに入る方針だが、バスの愛称として「南部バス」の呼び名は残す。

南部バスとして最後の営業となった28日も、路線バスは普段通りに運行した。長年にわたって住民生活を支えてきた老舗企業は、静かに一つの役目を終えた。

新体制で岩手県北自動車南部支社長に就く南部バスの高橋学常務は取材に「これまで利用いただいた地域の方々に感謝したい。長い歴史があり、残念なことだが、今後は新生・南部バスとして愛されるように努力していく」と話した。

（松原一茂）

きょうの紙面

23 〝プレミアム〟青森県内は？
2 漁獲金額12年ぶり600億円超
4 十和田、むつ、久慈予算発表
5 違法天下り青森大も関係先
14 十和田湖畔で雪上運動会
19 薬局145カ所で薬剤師不足
22 作家の左舘秀之助氏 死去

地域 14～16　スポーツ 12.13
ラジオ・テレビ解説 18　ひろば 20.21
シニア・大人女子・文化 9.10.11

循環器内科・心臓血管外科
はちのへハートセンター
クリニック
院長 菊池 文孝（循環器内科）　副院長 渡合 美光（循環器内科）
非常勤 高橋 賢二（心臓血管外科）
診療受付時間　午前8時15分～午前11時30分
休診日　日曜日、祝日、年末年始（12/30～1/3）
八戸市田向字鵜ノ目65-1 ☎0178(43)4180
ホームページ http://www.hachinohe-heart.com/

平成29年3月1日付デーリー東北

南部バス営業終了

きょう事業譲渡、新体制に

自社運行による最後の営業を終えた南部バス。3月1日からは「岩手県北自動車南部支社」として再スタートを切る＝28日、八戸市のラピア

青森県南地方を中心に路線バスを展開する南部バス（八戸市、佐藤力社長）は28日、自社運行による最後の営業を終えた。3月1日からは岩手県北自動車（県北バス）＝盛岡市、松本順社長＝が全事業、全路線を引き継ぎ、「岩手県北自動車南部支社」として再スタートを切る。

【2ページに関連記事】

創業91年の南部バスが自力再建を断念した今回の事例は、持続可能な公共交通システムの在り方に改めて一石を投じた。浮き彫りになったのは「路線維持」と「採算性確保」を両立させる難しさ。地方の公共交通に潜む危機が表面化したケースでもある。将来にわたって〝地域の足〟を存続させるため、事業者、行政、そして利用者が一体となった取り組みが問われる。

南部バスは1926（大正15）年2月、五戸町を拠点に鉄道を運営する「五戸電気鉄道」として創業。31年にバス事業に参入し、68年に発生した十勝沖地震の影響でバス専業となった。

ピーク時の72年度の利用者数は1417万8千人に上ったが、自家用車の普及や人口減といった社会環境の変化で年々減少。2015年度は377万7千人にまで落ち込んだ。売上高も縮小傾向にあり、赤字経営を強いられた。

昨年11月28日、約26億円の負債を抱え、東京地裁に民事再生法の適用を申請。県北バスに事業譲渡する方向で協議を進めてきた。

譲渡は3月1日に実行し、県北バスによる新体制に移行する。当面は路線やダイヤを維持し、運賃の変更もない。南部バスは清算手続きに入る方針だが、バスの愛称として「南部バス」の呼び名は残す。

南部バスとして最後の営業となった28日も、路線バスは普段通りに運行した。長年にわたって住民生活を支えてきた老舗企業は、静かに一つの役目を終えた。

新体制で岩手県北自動車南部支社長に就く南部バスの高橋学常務は取材に「これまで利用いただいた地域の方々に感謝したい。長い歴史があり、残念なことだが、今後は新生・南部バスとして愛されるように努力していく」と話した。

（松原一茂）

平成29年3月2日付デーリー東北

デーリー東北
THE DAILY TOHOKU
2017年（平成29年）3月2日(木)
（旧暦 2月5日）赤口
新聞社 〒031-8601 八戸市城下1丁目3-12 ☎0178-44-5111 http://www.daily-tohoku.co.jp 購読お申し込み 0120-365-339

きょうの短歌
鉛筆の先が減るたび増えていく

南部バス新体制始動

通勤、通学 混乱なく

民事再生手続き中の南部バス（八戸市）は1日、全事業、全バス路線を岩手県北自動車（県北バス）＝盛岡市、松本順社長＝に譲渡し、「岩手県北自動車南部支社」として新体制での運行をスタートさせた。路線やダイヤは維持され、運賃体系の変更もない。経営主体が代わっても大きな混乱は見られず、順調な滑り出しとなった。

【2ページに関連記事】

岩手県北自動車に事業譲渡

事業譲渡を実行して「岩手県北自動車南部支社」となった南部バス。新体制での運行をスタートさせた＝1日、八戸市是川一ツ屋

県北バスは、全国の公共交通事業で再生実績がある「みちのりホールディングス」（東京）の傘下。路線バス網は従来の岩手県北部から拡充され、三八地域を中心とした南部バスの営業エリアが新たに加わる。南部バスは県北バスの南部支社として、みちのりグループの一員となった。

事業譲渡の実行により、南部バスが展開する乗り合い路線バス、高速バス、コミュニティーバス、貸し切りバスなどの全事業が引き継がれた。一方、愛称として「南部バス」の名称は今後も存続する。

従業員約240人はいったん解雇となり、約2300人が県北バスに新規雇用されそうだったことから、南部支社長には、南部バスの高橋学常務が就任した。

新体制初日の1日は、目立った混乱もなく、普段通りにバスが運行し、多くの住民が通勤や通学、通院、買い物などに利用した。

みちのりグループのモットーでもある松本社長は、南部支社や各営業所を回ってあいさつし、新たに加わった従業員を激励した。

松本社長は取材に「社員の皆さんには、交通事業者としての誇りを胸に毎日の仕事に臨んでもらいたい。自分の仕事が社会の役に立っているのを実感できることが大切だ」と強調。

新体制に関しては「関係自治体との連携を密にし、より良い公共交通の在り方を検討する。これまで通りの役割を果たしつつ、一層の利便性や快適性を提供したい」と意欲を示した。

南部バスは約26億円の負債を抱え、昨年11月28日、東京地裁に民事再生法の適用を申請。同地裁は保全命令を出し、同12月2日付で民事再生手続きの開始を決定した。今後、南部バスは再生計画案をまとめて同地裁に提出する一方、会社の清算手続きに入る方針。

（松原一茂）

森友学園 理事

大阪府豊中市の校法人「森友学園」の下げ問題で、太泰典理事長が20月、自民党の鴻池災担当相と議員会のため面会し、現後も存続する。

きょうの紙面

21 住宅再建進む北奥羽地方
2 シャモロック弁当販売
14 仕事や買い物疑似体験
15 酒造り作業に興味津々
20 青森県内高校で卒業式

地域 14、15　スポーツ 12　私見創見 17
ラジオ・テレビ解説 8　ひろば 18、19
芸能・文化 10、11　市民のページ 16

◇お知らせ　本日付で別刷り「青森ワッツ応援特集」（タブロイド判4ページ）を発行しました。

事業譲渡実行、再生スタート！

事業譲渡の条件は

- 社員は2月28日で一旦全員解雇され、3月1日に岩手県北自動車で新規雇用する。
- 路線バス、貸切バス、整備工場、子会社の南部バス観光の全事業を引き継ぐ。
- 南部バスで発行した定期券、回数券は引き続き使用できる。
- 地域に根付いている南部バスの名称と路線バスのデザインは継続する、など。

再生スタート！

- みちのりホールディングスより２名が常駐。経営から実務における課題を洗い出し、岩手県北本社と南部支社社員とコミュニケーションを取りながらＰＤＣＡの進捗管理を徹底。毎週の会議で社長に報告と判断を仰ぎ課題解決や各種施策を実行。みちのり横串メンバーによる路線バス活性化、整備、安全管理など、テーマごとの本社ならびにグループ会社での好事例（ベストプラクティス）横展開を通して、業務改善・収益向上を図るという手法にて改善を進めていった。

平成29年3月1日付デーリー東北

デーリ

岩手県北自動車・松本社長インタビュー

インフラ発展に意欲

八戸市営バスと協力も

3月1日に南部バス（八戸市）から事業を引き継ぐ岩手県北自動車（盛岡市、県北バス）は、全国で公共交通事業の再生を手掛ける「みちのりホールディングス」（東京）の傘下にある。みちのりグループのトップで、県北バス社長を兼ねる松本順氏は28日、八戸市内で本紙の取材に応じ、「八戸市営バスと協力して地域の交通インフラを発展させたい」と意欲を示した。

（聞き手・松原一茂）

【デーリー本社】

―今後のバス路線やダイヤの見通しは。

南部バスは通勤、通学、買い物などで利用され、地域の足を担ってきた。その役割は同様だが、変わらないといけない部分もある。実際に運営が始まらないと分からないが、運行経路やダイヤがそれに当たる。多くの社会環境の変化がある中、自分たちの商品として、より優れたものになるよう変化を求めるべきだ。

―グループの一員となるメリットをどう考える。

交通・観光8社の経験が参考になる。ベストプラクティス（最善の方法）を生み出せたら、他地域でも共有していく。それが、より速いスピードで事業を成し遂げる最良の手段だ。

県北バスはインバウンド（訪日外国人旅行）の取り組みが多く、グループには専門会社もある。国内旅行も含めて観光面の需要が開拓できる。

―設備投資の方針は。

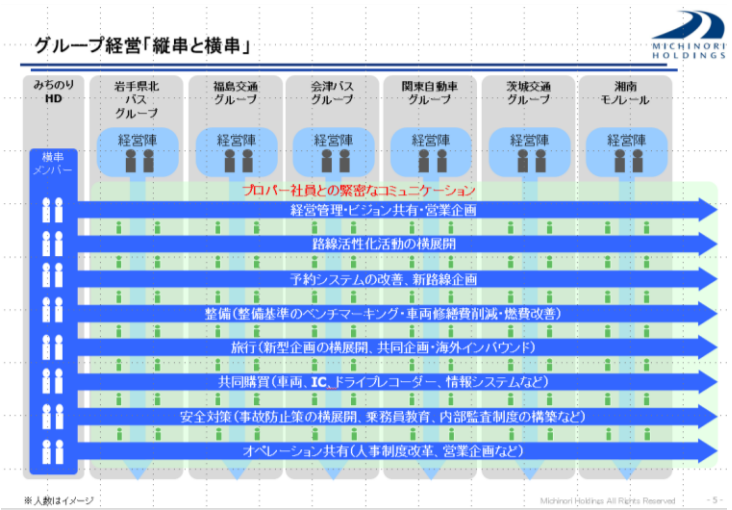
バスが老朽化しており、徐々に車両を更新する。新技術を取り入れたバスロケーションシステムやICカードも導入したい。設備的な発展で、利用者が将来に期待を抱くようになる。

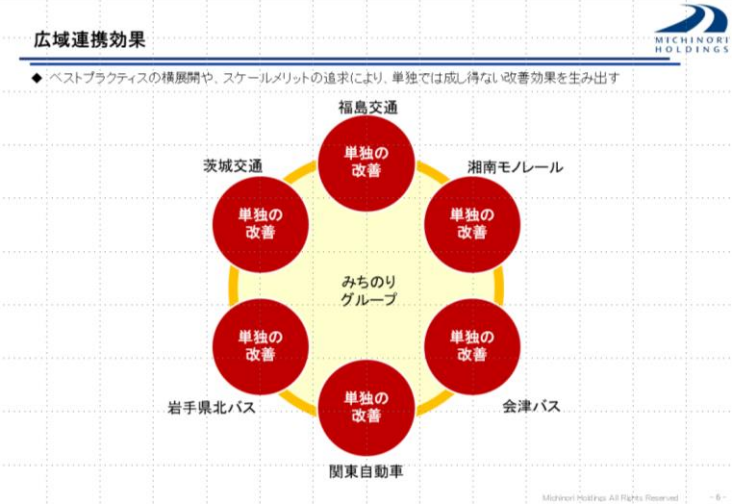
ただ、現状の乗り合いバスの収益性では自力で導入するのが難しい。公的な支援を頂き、市営バスと一緒に取り組めれば。南部バスは八戸エリアの公共交通の一翼を担っているが、市営バスと一緒でないと本当の効果は得られない。

―八戸エリアの公共交通の印象は。

八戸市の交通政策は熱心だ。南部バスと市営バスは「競合」ではなく「協同」の関係にある。協力して地域の交通インフラの発展につなげたい。関係自治体と連携を密にしていく。

地域交通インフラの発展に意欲を示す松本順社長＝28日、八戸市内





再生スタート①

次々繰り出す打ち手で改善へ

➢ 運転士が辞めていく…

- 事業譲渡前後で退職者が止まらず9月末までに運転士26名が退職。
- 最優先課題として取り組み、積極的な募集広告、支度金支給など数々の打ち手により9月末までに運転士を21名採用。

➢ バスの故障多発で車両不足

- 老朽化が進んでいたバスが事業譲渡以降一気に故障多発し車両不足。
- 中古車による車両更新とボディ補修、整備体制の見直しなどにより車両不足を解消。

➢ 労働条件、人事制度移行への不安

- 岩手県北本社の労働条件、人事制度へ10月から移行するが、労働条件・給料が下がるなどの噂が運転士に拡大。
- 労働条件、人事制度の説明会実施と個別対応で理解を深め、期間限定激変緩和措置で不満緩和。

➢ 社員から意見募集

- 社長発信で、南部支社社員から改善提案、ビジネスアイデアなどをメール等で社長へ直接送付にて募集。実現可能なものからすぐに実行。

平成29年4月1日付デーリー東北

2017年（平成29年）4月1日（土曜日） 経済・総合 （2）

Economic

運転士不足当面の課題

南部バス事業譲渡1カ月

採用強化、人事評価制も

青森県南地方を中心に路線バスを展開していた南部バス（八戸市）の全事業が岩手県北自動車（県北バス）＝盛岡市、松本順社長＝に引き継がれ、「岩手県北自動車南部支社」としての運行がスタートしてから、1日で1カ月。新体制でも路線やダイヤは維持され、地域の公共交通機関として再び重要な役割を果たしている。今後は車両更新や設備投資を実行し、利用者の利便性向上を図る。一方、運転士不足が当面の課題となっており、積極的な募集活動や業務環境の改善を進める方針だ。

南部バスは約26億円の負債を抱え、昨年11月28日、東京地裁に民事再生法の適用を申請。12月2日付で民事再生手続きの開始決定を受けた。

同時に、路線バスや高速バスなど全事業を県北バスに引き継ぐ方向で協議を進め、3月1日に事業譲渡を実行。従業員約240人はいったん解雇され、ほとんどが県北バスに新規雇用される形で転籍した。

県北バスは、公共交通事業で再生実績がある「みちのりホールディングス」（HD、東京）の傘下。みちのりHDのトップでもある松本社長は、グループのノウハウや利点を生かした運営を進める考えを示す。

県北バスによると、老朽化したバスは順次更新し、低床バリアフリー車両も購入予定。路線・ダイヤ検索システムやバスロケーションシステム、ICカードの導入に向け、八戸市営バスなどとの連携を模索する。

従業員の業務環境や待遇に関しては、10月から県北バスの人事評価制度を南部支社にも適用する。能力や業績で適切に評価し、本人に給与面などで還元する制度に変更。従業員から募った意見や提案は、現場の声として事業運営や経営改善に反映させるという。

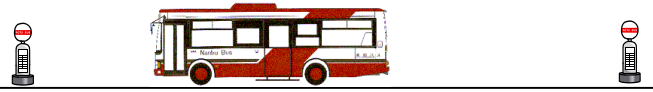
一方で、バス事業の中核を担う運転士が足りず、大きな課題となっている。旧南部バス時代から人数は十分ではなかったが、事業譲渡時に転籍を希望しなかったり、その後に退職したりしたケースもあり、県北バス本社からの応援でしのいでいるのが現状だ。

このため、新たな募集方法で採用を強化。大型二種免許の保有者には入社時に支度金20万円を、免許のない人には取得費を支給し、人員確保に努めている。

新体制での運行に関し、県北バスは取材に「沿線の各自治体を訪れ、社会的な役割と期待を再認識した」と強調。「今後も『地域の足』としての持続性を確保し、交通ネットワークの充実と毎日の安全・安心を提供し続けたい」とした。

（松原一茂）

岩手県北自動車南部支社が運行する「南部バス」。運転士不足が課題となっている＝31日、八戸市中心街



再生スタート②

➢ 施設、設備、車両の更新・改修

- 老朽化した八戸営業所給油スタンドを大型タンク導入で更新。
- 老朽化したトイレの更新、雨漏りしていた整備工場屋根修復、エアコン取付などの職場環境改善。
- 平均車齢20年以上と老朽化が目立つバスの車両更新とボディ補修を急ピッチで実行。

➢ 人事評価制度と賞与支給

- 運転士を含む全社員に成果主義型の人事評価制度を導入。
- 新体制での初めての夏期賞与を少額ではあるが支給。

➢ コスト削減

- 燃料仕入先の複数化とグループ他社単価比較にて軽油単価引き下げ、燃費キャンペーン実施による燃料費削減。
- グループ会社との情報共有や比較検討などによる整備コスト削減。
- グループスケールメリットによる車両購入費の削減。

平成29年7月13日付デーリー東北

南部バス引き継いだ岩手県北自動車（盛岡）

事業継続 十分に可能

今年3月1日に南部バス（八戸市）の全事業を引き継いだ岩手県北自動車（県北バス、盛岡市）の松本順社長は12日、青森県南地方を中心に展開する路線バス事業について、利用者数は南部バスの運行時と同じ水準で推移していることを明らかにした。事業全体の収入もほぼ横ばいだが、コスト削減の効果で損益面は改善傾向にあるという。懸案だった運転士不足も解消しつつあり、「今後も十分に事業を継続できる」と改めて意欲を示した。（松原一茂）

利用者同水準コスト削減効果

約4カ月間の取り組みの成果として、本紙などの取材に答えた。

県北バスは公共交通事業の再生実績がある「みちのりホールディングス」（HD、東京）の傘下で、松本社長はみちのりHDのトップ者から調達し、単価は以前より10%ほど低下したという。

路線バスの利用者は前年同月比で横ばいで推移。グループ化のメリットを生かし、燃料費などの経費削減につなげた。燃料は複数の業

松本社長によると、5月以降、コスト削減の効果が表れており、現在の経営状況は「路線バスに関わる補助金を収入に加えれば赤字ではない」とした。

運転士は転籍を希望しなかったり、その後に退職したりした人が3月末時点で二十数人

以内に車齢20年超の車両をほぼなくす計画。

既に車両更新に着手し、路線・高速用の計134台のうち、老朽化が目立つ21台は来年9月までに中古車購入による更新を順次行う。その後、年間15台程度を切り替え、5年

3月末時点で二十数人が上ったため、支度金や大型二種免許取得費を支給するなどの新たな条件で採用を強化。これまでに20人を新規雇用して人手不足解消のめどが立ち、休止していた一般貸し切りバスの営業を再開する方針だ。

経営難に陥った南部バスは県北バスに全事業を譲渡。現在は民事再生手続きから移行し、破産手続きを進めている。青森県南地方などのバス事業は「岩手県北自動車南部支社」が担当する。

貸し切りや高速用は新車の導入を検討する。

松本社長は「事業は順調に進み、手応えもある。運転士を中心に社員の意欲が高く、事業再建に協力する姿勢があるので、将来展望が描きやすい」と話した。

「路線維持が基本方針」 松本社長一問一答

南部バスから事業を引き継いだ約4カ月間の成果を語る松本順社長＝12日、八戸市の岩手県北自動車南部支社

南部バスの全事業を引き継いだ岩手県北自動車（盛岡市）の松本順社長は12日、八戸市内で取材に応じ、不採算路線への対応について「八戸圏域の交通ネットワーク全体の中で考えていくべきだ」との認識を示した。（聞き手・松原一茂）

—これまでの成果は。

運転士不足で一時は岩手県北自動車本社からの応援でしのいでいたが、20人の新規採用にこぎ着けた。引き続き募集活動に注力することで充足を実現し、新たな取り組みも検討したい。

事業再建の進展などを踏まえ、少額ではあるが夏季賞与を支給した。みちのりグループで適用している人事評価制度も導入する。

10月からの新たな事業年度では、貸し切りバスの分野を伸ばし、インバウンド（訪日外国人旅行）の需要を開拓していく。

—設備投資の方針は。

約2億円を投資し、大半を車両更新に充てる。車両以外の設備も緊急性の高いものから更新、整備している。ICカードやバスロケーションシステムの導入は、八戸市交通部と協調する形で実現に向けて進めたい。

—不採算路線への対応は。

交通ネットワーク全体の維持がわれわれの使命。不採算路線については、八戸圏域の交通ネットワークの維持、再編に関する協議に参加して考えていきたい。「生活足」である路線の維持が基本方針だ。

「再生」の結果、業績が上向いたこと、バス、施設、待遇改善が目に見えたことで社員に新会社への期待感が生まれてきた。人事評価により自分の頑張りが給与アップに繋がることがわかり仕事へ取り組む姿勢が変わってきた。さらに、社長インタビュー、プレスリリースなどマスコミを活用し当社の現状、取り組みを情報発信することで、地域住民へ再生進捗による安心感と将来への期待感を高めていった。

Everyday Everywhere いつもどこかで南部バス。

再生から健全化へ

平成30年3月1日付デーリー東北１面

運転士39人 新規採用

南部バス 新体制１年

利用者横ばい「再建順調」
老朽車両の更新進む

中古車を購入して更新した「南部バス」の車両＝28日、八戸市の岩手県北自動車南部支社

南部バスの全事業が岩手県北自動車（県北バス、盛岡市）に引き継がれ、新体制での運行がスタートしてから3月1日で丸1年が経過した。同社の松本順社長は28日、本紙などの取材に応じ、1年間で運転士39人を新規採用したほか、老朽化したバス車両を17台更新したことを明らかにした。利用者数に関しては減少傾向に歯止めをかけ、横ばいで推移している状況とし、「事業再建は順調に進んでいる」との認識を示した。【2ページに一問一答】

経営難に陥った旧南部バスは県北バスに事業を譲渡し、2017年3月1日から「岩手県北自動車南部支社」（八戸市）となった。県北バスは公共交通事業の再生実績がある「みちのりホールディングス」（HD、東京）の傘下で、松本社長はみちのりHDのトップでもある。

県北バスによると、事業譲渡時に運転士は153人いたが、人数が不足していたため採用活動を強化。支度金の支給や大型2種免許取得支援などの新たな条件で募集し、2月末時点で39人を新規雇用した。その間の退職者もいたが、現在は165人が勤務しており、1年間で12人増加した。

運転士が充足されたことで、休止中だった一般貸し切りバスの運行を昨年10月ごろから本格的に再開。一方、三戸と五戸の両営業所の運転士は人数が十分ではないため、引き続き採用に力を入れる方針だ。

車両は中古車購入によって17台を更新し、16台の車体補修を実施。老朽化が目立つ車齢20年以上の車両を中心に、今後は年間15台以上を更新する計画という。貸し切りバスは、今年4月までに新車1台を購入するほか、県北バス本社の1台を南部支社に移管する。

ダイヤ編成ソフトの導入や営業所の補修といった車両更新以外の設備投資にも順次着手。今年9月までに、全車にドライブレコーダーを取り付ける。ICカードやバスロケーションシステムの導入に向けては、八戸市営バスを運行する市交通部と協議を続けている。

経営状況に関しては、路線バスやコミュニティーバスの利用者数の減少傾向に歯止めがかかったこともあり、売り上げや収益面は事業再建当初に掲げた計画通りに推移しているという。燃費改善の取り組みなどでコスト削減も図った。

松本社長は「南部支社を含めて県北バスが一体となり、交通インフラを担って地域社会に貢献したい。その結果として、事業の持続性を確保していく」と新体制2年目の抱負を語った。

一方、松本社長は昨年10月に八戸市内で発生した、回送中の路線バスが自転車の男性をはねた事故について、「重傷を負わせてしまい申し訳ない。日々の安全を優先し、事故の再発防止に努める」と陳謝した。（松原一茂）

東京五輪マスコット決定

【223ページに詳報】

五輪　パラリンピック

2020年東京五輪・パラリンピックの大会マスコットに選ばれたキャラクター

【五輪マスコット】伝統と近未来が一つになった温故知新なキャラクター。伝統を大切にしながら、常に最新情報をキャッチしています。正義感が強く、運動神経抜群で、どんな場所にも瞬間移動できます。伝統の市松模様と近未来的な世界観から生まれました。

【パラリンピック・マスコット】桜の触角と超能力を持つクールなキャラクター。いつもは物静かなのに、いざとなるとパワフル。強い信念と自然を愛する優しさがあり、石や風と話したり、見るだけで物を動かせます。市松模様と桜を力強く表現して生まれました。

(財)日本医療機能評価認定取得
医療法人 平成会
八戸平和病院
〈診療受付時間〉平日 午前8:00～12:00 午後2:00～5:00
休診 土曜・日曜・祝日・年末年始
※曜日によって診療科が異なります。
※急患は随時受付しております。
八戸市湊高台二丁目4-6 ☎(0178)31-2222(代)

１年目は「再生」順調、改革を加速

➢ 驚異的な運転士採用

- 最優先課題として取り組んでいた運転士採用が順調に進み１年間で39名採用。

➢ バス車両の大規模更新

- １年間に17台の車両更新と16台のボディ補修を実行。
- 南部バスは古くてサビれてるというイメージを一新。
- 貸切バスで新車を購入。

➢ ドライブレコーダー全車搭載

- 一部車両に搭載していたドライブレコーダーを入れ替え全車搭載。
- デジタコ一体型で運転教育に活用し事故費用削減、燃費向上による燃料費削減。

➢ 路線見直しとマーケティング強化

- 路線の損益分岐を明確にし、収支改善に向けた自治体との協議を実施。
- 定期券や乗車券のラインナップ、販売方法の見直しによる拡販など、顧客目線でのマーケティングを強化。

➢ 高速バス東京線を新ブランド「ＭＥＸ」へ切換

- 南部バス時代よりWILLER EXPRESSと連携して運行していた東京線を、みちのりグループの高速バスブランド「MEX（Michinori Express）」へ切換。
- 価格、サービスなど自社コントロールによる収益改善を実現。

健全化から成長へ

事業改革と拡大はますます加速する

➢ 青森営業所開設で青森市へ進出

- 地元及び国内外インバウンドの貸切バス需要をターゲットに、青森営業所を南部支社の管轄で開設。
- 八戸から回送していたＭＥＸ青森を青森営業所に移管し、運行効率化と八戸営業所の運転士不足を改善。

➢ 青森市営バス運行管理受託

- みちのりグループで初めての公営バス運行管理受託として、青森市営バスの運行管理受委託契約を締結。

➢ みちのりトラベル東北発足

- 子会社の旅行代理店岩手県北観光と南部バス観光を統合し、みちのりトラベル東北発足。
- 南部バス観光はみちのりトラベル東北八戸支店となり、一体化による営業力強化と魅力的な商品開発、スケールメリットを生かした誘客を実施。

➢ バスロケ、ＩＣカード導入準備と働きかけ

- 事業譲渡時からコミットしていたバスロケーションシステム、ICカード導入に向け準備を進め、県・関係自治体へ支援要望。
- バスロケ、ICカードとも八戸市営バスと連携し、八戸圏域で共通利用できるシステム導入を八戸市、圏域町村へ働きかけ。

しかし、新型コロナウイルスで状況は一変…

平成31年1月21日付デーリー東北

リー東北　2019年（平成31年）1月21日（月曜日）

Economic Monday エコノミック・マンデー

1月号は「V字回復」

南部バス 再生強調

青森県南地方で路線バス事業などを展開する「南部バス」。2017年3月、事業譲渡によって岩手県北自動車（盛岡市）が経営主体となり、車両更新や運転士の採用強化といった改革を推進している。松本順社長は「健全な事業者に戻った」と再生を強調。今後の〝V字回復〟に向け、利便性向上や観光需要の取り込みによる利用増を目指す。同社を傘下とする「みちのりホールディングス」（東京）の代表取締役グループCEO（最高経営責任者）でもある松本氏に話を聞いた。（聞き手・松原一茂）

車両更新 採用強化「健全な事業者に戻った」

みちのりHD・松本氏インタビュー

―事業譲渡後から着実に改革を進めている。

利用者の方々に、目に見える形で南部バスの変化を感じ取ってもらうことが必要。18年11月現在、老朽化したバスは全137台のうち約40台を更新し、約20台を補修するなどした。

変化は従業員にも大事なこと。さまざまな策を講じて運転士の採用を強化し、多少の待遇面や職場環境の改善も進めた。働き方改革はまだ改善の余地があり、今後は研修を充実させて定着率の向上も図りたい。南部バスを運転する誇りを持ってもらうことが重要だ。

―南部バスの経営の現状をどう見る。

現在、南部バスは岩手県北自動車南部支社が運行しているが、既に事業再生の局面は終わり、健全な公共交通事業者に戻った。この点は従業員と共有したい。

グループ化のメリットも大きい。他地域で得た知見を、南部支社の事業や八戸圏域の公共交通計画にも生かしたい。今月からは、八戸など青森県内と首都圏を結ぶ高速バスに、みちのりグループの統一ブランド「MEX（メックス）」の新型車両を投入した。予約は好調に推移している。

―利用者増の方策は。

国や自治体の支援を受けながら、ICカードや最新のバスロケーションシステムの導入を検討したい。スマートフォンでリアルタイムの運行状況を自由に見られるようになれば、利便性は大きく向上し、利用者の増加にもつながるだろう。

一方で、新たなシステムは八戸市営バスと一緒に導入しなければ効果は十分ではない。地域路線バス全体の利便性向上は、観光客やビジネス客の取り込みに対しても有効な手段になる。

―今年4月に八戸圏域でDMO（観光地域づくり推進法人）が発足する。観光面での連携をどう考える。

青森県をはじめ、東北地方はインバウンド（訪日外国人旅行）の経済効果が拡大している。DMOと連携し、国内外から八戸圏域に観光客を呼び込みたい。

関連会社の岩手県北観光は台湾に事務所を構え、インバウンド効果が北東北全域に広がるようにマーケティングを進めている。東北に来る外国人観光客の発着点は空港。ラウンドオペレーター事業を展開し、八戸圏域まで誘導していきたい。

路線バスの利便性が高まれば観光利用が増え、運行ダイヤの増便に結び付く大きな流れが生まれる可能性も考えられる。現時点では乗り越えるべき課題は多いが、知恵を絞りたい。

―今後の展望は。

地域の足である路線バスの維持がわれわれの使命。高速バスや貸し切りバスの利用促進も図りたい。それらの事業の発展が収益性の向上につながり、路線バス事業にもプラスに働く。

高齢化社会の進展やインバウンドの拡大に加え、首都圏で見られる若者の「車離れ」が地方にも広がるようになれば、公共交通はより地域で欠かせない存在になる。現状からの〝反転〟も見据えて取り組みたい。

「南部バスは健全な公共交通事業者に戻った」と語る松本順氏＝16日、盛岡市内

コロナ禍ですべてが変わったが…。

身を縮めながらも、アフターコロナのＶ字回復へ準備

➢ バスロケーションシステム稼働

- 本年3月よりバスロケーションシステム稼働開始。一般路線のほか当社受託の自治体コミュニティバスも運行状況を確認可能。
- 八戸市営バスとの共通案内の協議、病院・商業施設へのデジタルサイネージ設置を準備中。

➢ 地域連携ＩＣカード「ハチカ」導入

- 八戸市を中心とした八戸圏域で利用できる地域連携ＩＣカード「ハチカ」導入。令和4年3月利用開始予定で準備中（同時期に県北バスは「ＩＧＵＣＡ」導入）。
- 公営と民営の事業者が協力してエリア全体で導入する初めてのケースであり、交通ネットワークとしての利便性を向上。
- 当社一般路線のほか自治体コミュニティバス（南部町・五戸町）でも導入。

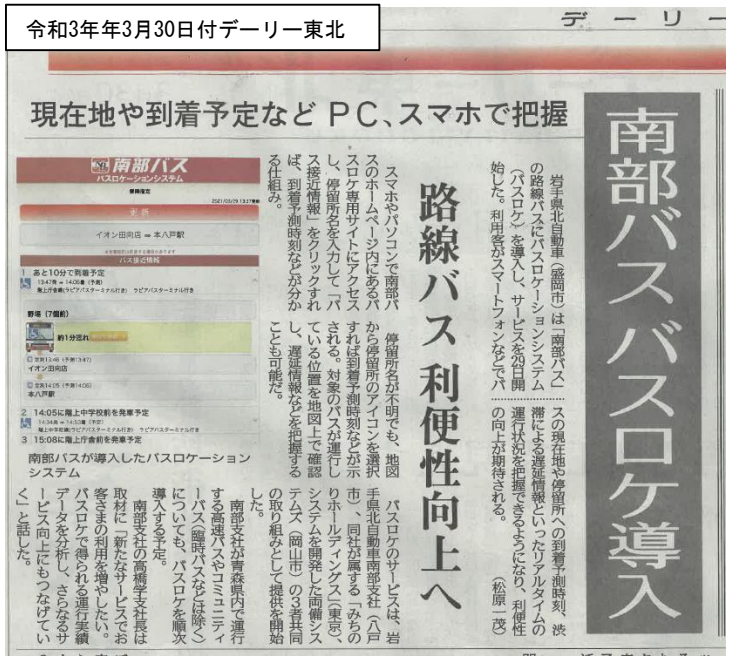
➢ MaaS、リクエスト型最適経路バスなどＤＸの推進

- MaaSの仕組み、効果について県・自治体へ提案、導入を働きかけ。
- リクエスト型最適経路バス（ﾀﾞｲﾅﾐｯｸﾙｰﾃｨﾝｸﾞ）の仕組み、効果を提案、これまでの当社のノウハウと合わせて最適な地域交通のあり方を自治体と検討。

➢ 新規移動需要を実証運行で開拓

- 国などの補助を活用した実証運行で、新規移動需要開拓への取り組み。

令和3年年3月30日付デーリー東北



デーリー

南部バスバスロケ導入

現在地や到着予定など ＰＣ、スマホで把握

路線バス 利便性向上へ

岩手県北自動車（盛岡市）は「南部バス」の路線バスにバスロケーションシステム（バスロケ）を導入し、サービスを24日開始した。利用客がスマートフォンなどでバスの現在地や停留所への到着予測時刻、渋滞による遅延情報といったリアルタイムの運行状況を把握できるようになり、利便性の向上が期待される。（松原一茂）

スマホやパソコンで南部バスのホームページ内にあるバスロケ専用サイトにアクセスし、停留所名を入力して「バス接近情報」をクリックすれば、到着予測時刻などが分かる仕組み。

停留所名が不明でも、地図から停留所のアイコンを選択すれば到着予測時刻などが示される。対象のバスが運行している位置を地図上で確認し、遅延情報などを把握することも可能だ。

バスロケのサービスは、岩手県北自動車南部支社（八戸市）、同社が属する「みちのりホールディングス」（東京）、システムを開発した両構システムズ（岡山市）の3者共同の取り組みとして提供を開始した。

南部支社が青森県内で運行する高速バスやコミュニティバス（臨時バスなどは除く）についても、バスロケを順次導入する予定。

南部支社の高橋孚支社長は取材に「新たなサービスでお客さまの利用を増やしたい。バスロケで得られる運行実績データを分析し、さらなるサービス向上にもつなげていく」と話した。

南部バスが導入したバスロケーションシステム

令和3年6月25日付デーリー東北

デーリー東

（第3種郵便物認可）

八戸圏域の交通系ＩＣカード

圏域連携ICカード名称・

名称は「ハチカ」

佐々木さん（八工大）デザイン

八戸圏域で八戸市営バスと南部バスが導入を計画する交通系ＩＣカード「地域連携ＩＣカード」について、バス事業者の市と岩手県北自動車（盛岡市）は24日、名称が「ハチカ」に決定したと発表した。「デザインも公表し、南部バスのメインカラーの赤、市営バスの青、明るさや元気をイメージした黄の3色が印象的なカードとした。利用開始は来年3月を予定している。

地域連携ＩＣカードは、ＪＲなどの鉄道利用や電子マネーといったＳｕｉｃａ（スイカ）機能に加え、路線バスの運賃支払いや定期券などとして使える地域独自のサービスを併せ持つ。

カードの名称は、学識者やバス事業者による選考委員会が応募240件の中から五つを選び、さらに人気投票の結果で上位3候補に絞り込んだ。最終選考の結果、八戸圏域8市町村のハチ」とカードの「カ」を組み合わせた仮称を表記のハチカに決定した。

デザインは八戸工業大感性デザイン学部に依頼。学内コンペティションを経て選定委が2年佐々木南海さん（19）の作品を選んだ。

会見で小林眞市長は「交通ネットワークとしての利便性向上が期待される」と強調。岩手県北自動車南部支社（八戸市）の高橋孚支社長は「八戸圏域の利用者やビジネス客、観光客にとって利用しやすく、長く愛されるカードにしたい」と述べた。試行錯誤を重ねてデザインしたという佐々木さんは「若い人からお年寄りまで、幅広い年代の方々に使ってほしい」と話した。（松原一茂）

「ハチカ」のデザインを紹介する（左から）小林眞市長、佐々木南海さん、高橋孚支社長＝24日、八戸市庁

iGUCA

岩手県域用は「ＩＧＵＣＡ」

岩手県北自動車（盛岡市）は24日、2022年春から県北バスが運行する県内の全路線バスが利用対象。今後、同じ地域内での交通事業者間の共通サービスなどについても検討を進めるという。（岩舘貴俊）

岩手県内の県北自動車の地域連携ＩＣカード「ＩＧＵＣＡ（イグカ）」サービスを開始する県内の地域連携ＩＣカードの名称とデザインを発表した。名称は「ＩＧＵＣＡ（イグカ）」に決まった。

名称は、岩手の方言「いぐ（行く）」とカードを組み合わせた。デザインは、吹き出しの中にロゴマークを入れ、「行くか」と声を発しているイメージにし、分かりやすく親しみやすい印象にした。

再生から健全化、成長段階までの実績

平成29年3月から令和3年6月30日までの南部支社実績

◆ バス車両の購入・ボディ補修台数

新車９台　中古車８９台　ボディ補修３１台

令和3年6月30日現在　所有車両数　乗合129台　貸切12台　合計141台

◆ 社員の採用数

全職種１４２名　うち運転士１１９名

令和3年6月30日現在　社員数
スタッフ55名　運転士183名　整備士21名　ガイド2名　合計261名

◆ 社員の年収上昇率

全職種１１３％　うち運転士１１２％

南部バス最終年度平成28年度と令和2年度比較

令和3年年8月15日付デーリー東北

Economic インタビュー

青森県南地方で運行される「南部バス」。2017年３月に事業を引き継いだ岩手県北自動車（盛岡市）が運行主体となってから、今年で５年目に突入した。同社を傘下とする「みちのりホールディングス」（東京）代表取締役グループＣＥＯ（最高経営責任者）の松本順氏(59)は、南部バス事業について「再生の局面を終え、成長の段階に入った」と強調する。新型コロナウイルスの収束後を見据えた対策としては、デジタル技術を活用した設備の導入を進める考えを示した。

（聞き手・渡部優）

南部バス 成長の段階に

みちのりホールディングス（東京）松本順ＣＥＯ

略歴　まつもと・じゅん　仙台市出身。上智大卒。2003年に官民ファンドの旧産業再生機構執行役員に就任し、九州産業交通や関東自動車などの事業再生案件を統括。07年に設立のコンサルティング会社「経営共創基盤（ＩＧＰＩ）」の共同経営者として交通・運輸事業の経営改革や再生を行う。09年のみちのりホールディングス立ち上げから代表を務め、現在はＣＥＯ。岩手県北自動車社長を兼務する。

譲渡５年　事業の持続性確保

―これまでの歩みに対する評価は。

19年10月に青森営業所（青森市）を開設したこともあり、事業譲渡を受けてから今年６月末までに運転士119人を採用した。車両も141台のうち98台を更新するなど矢継ぎ早に対策を講じ、事業立て直しのベースを整えた。路線バスは多くの人が利用すればするほど持続的な交通手段となる。バスが何十年先も存在する安定したインフラだと思ってもらうのがわれわれの役目。今はその持続性を確保し、成長する段階にきている。

―八戸圏域で八戸市営バスと南部バスで使える「地域連携ＩＣカード」が来春導入される。

利用者にとっては、市営バスも南部バスも同じ交通ネットワークの一つで、市営バス側にも導入を呼び掛けてきた。共通のシステムを使うことで利便性は増すだろう。

今年３月には、利用者がスマートフォンなどでバスの現在地や停留所への到着予測時刻、運賃情報などを把握できるバスロケーションシステム（バスロケ）も導入した。冬場でも、何分後にバスが来るのかを見定めながら停留所に向かうことができる。運行する側も時間に関する問い合わせが激減するのに加え、走行場所を正確に把握できるメリットがある。

―コロナ禍の打開策は。

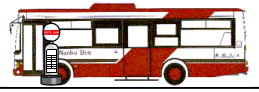
今が苦しいからと身を縮めるのではなく、利用者の利便性を高める長期的視点での取り組みが大切だ。路線バス事業では、バスロケやＩＣカードを取り入れた。貸し切りバスは運転士や車両を維持し、収束後は北東北に来る人の移動需要に応えたい。

―地域の足を守る意義をどう受け止める。

高齢化が進み、車の運転が難しくなる人は増える。一方で健康寿命は延びており、高齢者の社会参加を助けるのが使命だと考える。青森県内では実現していないが、人工知能（ＡＩ）を活用してバスの運行を最適化する「ダイナミックルーティング」という技術がある。従来の路線バスは経路とダイヤが固定されているのに対し、利用者や道路の状況に応じて柔軟に運行するものだ。グループでは既に、福島県会津若松市や茨城県高萩市で運用している。八戸圏域でも協力してくれる自治体があれば、早ければ来年にも実現させたい。

―岩手県北観光と南部バス観光が19年10月に合併し、みちのりトラベル東北が設立された。観光面の戦略は。

まずは魅力ある商品を提供する。インターネットでの旅行商品申し込みは増えており、大手旅行情報サイトに負けないネット販売の仕組み構築へ準備を進めている。「新たな生活様式」での人の移動を見極める必要はあるが、ワクチン接種が進めば移動は活発になる。収束後は、国内外の観光客の期待に応えられるサービスを展開していきたい。



最後に

- みちのりグループ傘下で、縦串と横串の両輪による経営支援体制のもと、新たな経営手法と地域をまたいだ広域連携を通じて、労働生産性の向上、継続的設備投資、デジタル化の推進などを進めることで、コロナ禍でも筋肉質な組織となった。
- 民事再生によるみちのりグループへの事業譲渡を実行していなければ、例え債務超過を解消できる資金提供があっても、労働協約、古くからの慣習などのしがらみで改革が進まず、社員の採用・待遇改善、車両・設備の更新、サービス向上、事業拡大をスピード感をもって、Ｖ字回復でここまで出来る体制ではなかった。
- 民事再生、事業譲渡でリセットして新しい体制の下で再建したからこそ、事業体としてのサステナビリティー、ひいては地域の交通ネットワークのサステナビリティーが確保出来ていると確信している。

本日はありがとうございました。